

# 自己評価票

自己評価は全部で100項目あります。

これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。

項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目の や 等)から始めて下さい。

自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。

自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

## 地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
サービスの成果に関する項目	13
<b>合計</b>	<b>100</b>

## 記入方法

### [取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

### [取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に をつけます。

### [取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

### [特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

## 用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

## 評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目( 1から 87)とサービスの成果(アウトカム)の項目( 88から 100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	幸楽の里
(ユニット名)	白樺
所在地 (県・市町村名)	和歌山県橋本市山内1919-3
記入者名 (管理者)	小玉 小百合
記入日	平成 21 年 3 月 18 日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

↑  取り組んでいきたい項目

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>				
1. 理念と共有				
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人内に理念の掲示やGHの理念の掲示。		
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	日常業務の中で確認しあい、介護の根本としている。		掲示だけに止まることがないように、理念について話し合う場を多く取りいれて行きたい。
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	家族の方と改めて理念について話し合うことは無いが、面会時には理念に基づいての介護の内容を説明している。		地域交流時を良い機会とし積極的に理念の話を取り入れて行きたい。
2. 地域との支えあい				
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	山間部であり、近所に家屋がないため、日常的な行き来は難しいが、野菜、果物の収穫の誘いの声を掛けて頂く事がある。		地域の方がホームに来られた事があるのは、まだ一部の方に限られていると思われるので、行事等を含めより多くの方に訪問して頂けるような事を考えて行きたい。
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の運動会に参加したり、地域の幼稚園との交流を持ち、クリスマス会や、年中行事に招き、共に楽しむ機会を持つようになっている。		地域の方が気軽に立ち寄れるように、馴染みの関係作りに努めていく。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域運動会では、カレーやたこ焼き等を提供し、地域の方に喜んで頂いている。		GHとして、出来ること、求められている事を明確にし、地域の貢献に努めて行きたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	全職員で評価の取り組み、細かな項目を確認する事により、日常的な支援の在り方を見直し、再確認することに役立っている。		今後も評価を活かし、具体的な取り組みに努める。
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	本人、家族、市役所職員、地域住民が参加し、サービス内容を説明している。		開催回数を増やしていくように努める。
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域ケア会議などの参加することで、新しい情報収集を行っている。		行き来することは少ないが市役所の見学会等の依頼を受けた場合は快く受けている。
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	和歌山県高齢者権利擁護推進委員を毎年2名程度受講することで職員に自己啓発を促している。		今までの中で利用されている方はいない。
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部の研修や法人内の勉強会で学ぶ機会を持っている。		言葉による拘束が行われていないか？日常生活のケアの中で重きにおき取り組んでいる。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	充分時間をかけ説明している。		
13	運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の意見、不満等訴えがあった場合、会議に出し職員皆で共有、改善に努めている。		家族訪問時は、利用者と家族がゆっくり過ごせるように配慮し、職員とも密な関係を築けるように努めている。
14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	暮らしぶりは面会時や毎月の新聞で伝え、金銭管理は利用料請求時に送付している。		
15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族の意見、苦情などは、意見箱・苦情箱を設け、職員にも伝え全職員で問題に取り組んでいる。		
16	運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月定期的に会議を設けている。朝礼や、終礼の申し送り時にも意見等を取り入れるように努めている。		
17	柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	その都度必要に応じて柔軟な職員の配置を考えている。利用者とのコミュニケーションの場を多く持つため		
18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	基本的には、各ユニットの職員を固定化し、顔なじみの職員によるケアに努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	法人内、GH勉強会、外部研修に参加している。	人員の都合により外部研修へ出る機会が少ない為、人員の調整を踏まえ、出来る限り必要に応じた研修参加に努めたい。
20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	グループホーム協会での相互実習に参加、自施設にて報告し、より良いサービスの提供に努めている。	
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	各フロアーにての食事会を行っている。	個々の職員に対して言葉掛けを多くし、悩みや、ストレスに感じて入る事等を敏感に察知出来る様に努めたい。
22	<p>向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	能力に応じて仕事を任せたり、向上心が見られた時等は、評価している事を伝える様にしている。	
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	デイサービスを利用している場合、一時居場所をグループホームに移しグループホームに入所されている人達とコミュニケーションをとりつつ本氏の訴えをスタッフがよくよく傾聴する様努めている。	入所に至るまで幾度となくホームを、家族共々見学して頂くべく、時間の調整に努めている。
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	家庭を訪問し本氏の現状(身体・環境等)をよくお聞きし、又今までかかわって来られた家族さんの訴えも合わせて、よくお聞きする様努力している。	入所に至るまで幾度となくホームを、家族共々見学して頂くべく、時間の調整に努めている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ケアマネとのコミュニケーションに努め、多種、多様な対応が出来る様、十分な話し合いの場の設定に努めている。		本氏が何を好んでいるかを中心によくお聞きし、出来る限り楽しさを共有出来る様側面から支えて行きたい。
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	一回は半日、二日目は少し時間を延ばす等してホームの雰囲気、入所されている人達の生活をゆったりとした生活の中で見、肌で感じていただける様、ならし入所の形をとる事もある。		時には昼食をスタッフと利用者と一緒にとり、楽しいと感じて頂ける様な場所作りに今後も努めて行きたい。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日勤が、その日のスタッフリーダー役となり、利用者一人一人の体調に合わせたコミュニケーションを考え、共に楽しい一日となれる様努めている。		今まで生きて来られた人生全てを尊重し、教えて頂くという姿勢を持ちつづけたい。
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	面会時、ホーム内での生活の様子や変化を伝え、又家族さんよりの希望をお聞きし、共に支えあって前向きに進んでいる。		ホーム内での、体調変化などは、随時電話にて連絡、家族の協力を得ながら、正面、側面から、支えているしからもそうありたい。
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	時には家族側の之までの生活をお聞きし涙する事もある。スタッフも家族の一員と同様の気持ちで接しており、良い関係を築いている。		心の通った、血の通った人間関係を持ち続けたい。しかし、土足で心の中に入り込まないように気をつける事を忘れないでほしい。
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	一日の生活の中で、歌やお話を通して、懐かしい人や忘れられない場所を思い出して頂ける様、日々、色を変え品を返して、変化を持たせ支援している。		時間が許す限り外出を多く取り入れ思い出に触れる機会を、体調を考慮しつつ、今後も作って行きたい。
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	仲の良い人同士、一緒の入浴したり、土いじりをしたりもするが、一人一人が出来る限り、一つの輪に溶け込めるよう話題も豊富に提供し、細やかな目配り、気配りを忘れない様努めている。		「一人一人が大切」をモットーに一年間を通してその時期の行事(地域やホーム内)に参加し皆の笑顔を引き出した。一人一人が出来ることを集結し、何かをなすとげたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退所後、入所されている場合、時にはお見舞いに行くなど、又家族さんへの電話で様子をお伺いするなどの配慮を忘れないで実行している。		退所後亡くなられた場合でも、家族さんにより一年間に渡り届けられている、花束に感謝しつつ、今後も人との関わりを大切にしていきたい。
<b>. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
<b>1. 一人ひとりの把握</b>				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	意思の疎通が困難な場合は本氏の立場になり、言葉や表情を汲み取り把握で着る様に努めている。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本氏の語りや、家族やその関係者にお聞きする事により、情報をへている。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	個々を良く観察する事により、些細な変化にも気づく様に努めている。		有する力、ある程度理解していると思われるが、全てのことを把握は出来ていない。利用者の出来る・出来ないシートを活用し、過剰介護にならない様に努めたい。
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	担当者を主に会議等で話し合った内容もケアプランに反映させている。家族さんにも意見を聞き計画に取り入れている。		
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月に一度を基本に、利用者の変化に応じて、計画の変更、追加を行っている。		計画を立てるだけに終わらないように、幾つかある中の一つを、職員が見の届くところに貼り、実践に取り組んでいる。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	<p>個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	水分、排泄、睡眠、身体状況、青字で介護計画の実施を個別に記録している。		介護計画の実施を青字で記入するが、確実に出来ていない為、職員の意識を高め、癖つけて行くように努めている。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	小規模、老健、リハデイ、認知デイ等を活かし、長期入院後の受け入れ、自宅に戻られた後の支援に活かしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	<p>地域資源との協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している</p>	地域の幼稚園の訪問や、ボランティア活動より支援を受けている。毎年の行事となり利用者も楽しみにされている。		
41	<p>他のサービスの活用支援</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている</p>	本氏の希望や家族の希望に応じて訪問理容サービスを利用している。		
42	<p>地域包括支援センターとの協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している</p>	解決困難な状況に応じて、協議を行っている。		
43	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	家族の希望に応じてかかりつけ医を決めている。必要に応じて、健康診断や、往診をお願いしている。		母体が歯科医であるため、希望に応じて、週に一度のケアを受けている。



項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	認知症専門医ではないが、主治医の紹介や、家族との相談の上、より良い支援が受けられるように、考慮している。		専門医の協力も取り入れたい。
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	法人内の看護師に相談等を行い昼夜問わず、支援を受けている。		看護師の獲得は難しいが、GH専属の看護師の配置を希望している。
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時には、ホームでの様子を伝え、職員は、入院後も御見舞いに行き、家族とも情報の交換をしながら、速やかな退院支援に結びつけている。		
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用者の変化に合わせ、家族との話し合いを多く持ち、ホームで行うことが出来る最大の支援を伝える様にしている。		
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	職員の力量の差や、他利用者のレベルにもより、一律に決める事は出来ないが、家族や本氏の望みに応じられるように努めて行きたい。		終末期にあたっては、経験した事がない職員が多く、不安を多く持っている。家族や、職員との話し合いを重ねながら取り組んで行きたい。
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	他の事業所に移られた場合、アセスメント、支援状況等、手渡すと共に情報交換を行っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>トイレ声掛けは周り利用者にも気をくばる様に努めている。幸楽新聞に顔写真が掲載されることは、入所時に了解をえている。又班長会議等で使用する場合で家族の了解を得られなかった場合は、他の写真と交代するなどの配慮をしめている。</p>	<p>個人情報の基本的な考え方を、法人内勉強会で学んでいる。</p>
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>話をじっくり聞いて、自ら答えを出すことで、納得の行く生活を送ってもらう。</p>	<p>本氏の意見を尊重するように努めている。</p>
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>外に出て行こうとされた時は、止めるのではなく、身守る支援を行っている。</p>	<p>本氏の、今したい事を出来るだけ希望に沿っていきたい。</p>
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>外出可能な利用者は一般の理容店に出かけ外部との交流を持つている。外出困難な方は、訪問理容を利用している。皆同じ髪型ではなく、個性を出している。</p>	<p>朝の服装は、職員が決めがちになっている為、利用者の好みを聞きながら対応する様に努めていきたい。</p>
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員が一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>調理、盛り付け、片付け等共に行い、食事の時は、調理の御手伝いして頂いた、利用者の名前を出し、感想や御礼の言葉を掛けるように努めている。</p>	
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>好みの飲み物を幾つか用意しているが、皆同じ物を飲む時が多い。</p>	<p>個々で選ぶ楽しみを提供していく。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	個々の排泄パターンに合わせてトイレ誘導を行っている。又、利用者本位で自立度に応じパットやリハビリパンツを会議等で検討し気持ちよく日々が過ごせる様に支援している。		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	二日に一度を基本としているが、気分が優れないときは、柔軟に対応している。		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	寝る前にゆず茶等気分が落ち着く飲み物を提供。眠りに付きやすい環境作るに努めている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事作りや、後片付け負担にならない様に声をかけ共にやっている。天気の良い日は外への散歩やドライブに出かけ、気晴らしが出来るように支援している。		
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金所持の希望利用者には、家族と相談の上、希望に添っている。		家族より御預かりしている金銭を見せることで安心される事もある。
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	二日に一度の買い物や、近くの公園に出かけている。天気の良い日は外へ机を出し食事を摂ることもある。		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	年に一度、外泊旅行に出かけている。家族さんにも参加を呼びかけている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を掛けたいと訴えがあったときは、事務所の電話を自由に使えるようにしている。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族の面会時には、飲み物を提供、部屋でゆっくり過ごされたり、ホールで職員と共に話しながら過ごせるよう、又職員は笑顔で出迎えることが出来るように心掛けている。		新人職員は、名前や顔を覚えて頂き、より良い関係が築けるように努めていきたい。
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年に一回身体拘束廃止の研修を受け、気付かないうちに身体拘束を行っていないか職員全員で考える機会を作っている。		今後も研修を受け身体拘束廃止に取り組んでいきたい。
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵は夜間のみ施錠とし、外へ行かれる時、気づく様に玄関に鈴をつけ、外へ行かれた時は職員が付き添うようにしている。		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	プライバシーを守りつつ、夜間の巡視や安全確認を行っている。		知らないうちに出かけている事もあり、職員同士での声掛けや、常に利用者の居場所の把握に努めていきたい。
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	包丁など凶器になる物は決められたところに在るかを確認し、保管している。		使用している時は横に付き添うように努めている。
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故、ヒヤリハット報告書を作り、その報告書に対し皆で話し合い他に考えられる危険について話し合っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急マニュアルを作り会議の時や、新しい職員に説明している。夜間など急変があった時は併設している施設のナースが来て指示をあおいでいる。		事故が起きたときでも落ち着いて対応できるよう、日ごろから話し合い訓練をおこなう。
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害時に備え、飲料水や食料、インフルエンザなどの予防接種の薬を備蓄している。会議の時に災害時の対応を話し合っているが訓練まではできていない。		災害時に備え地域との合同非難訓練を行っていきたい。
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	面会時に体調の変化を説明し、変化の対してどの様なリスクが考えられるか話している。必要であれば物品の購入など家族の支援を受けている。		今後も起こり得るリスクに対し家族にもわかり易いように話をし、細かな連絡を取れるようにする。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	普段から体調に気をつけ、いつもと様子が違った時はバイタルチェックを行い受信が必要な時はすぐに受信するようにしている。受診後も変化に気をつけている。		全員が状況を把握できるようにきちんと申し送り、小さな事でも変化が出てきた時は皆で共有できるように記録に残している。
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の目的が解り易いように薬ケースに飲んでいる薬の一覧を作り表に貼り付けている。薬の飲み間違いや飲み忘れがないようにケース保管場所に戻す時には飲み忘れが無いか確認をするようにしている		利用者の高齢化に伴い体調に変化に気をつけ変化が出たときはすぐに主治医に連絡、受診できるように努める。
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便秘の方に対しては歩行して頂いたり、水分摂取にも牛乳寒天やお茶ゼリーなど主が好む物を提供している。		野菜を多く摂取できるようにメニューも野菜を多く取るように考えている。
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後に声掛け見守りをして出来ない所だけ援助している。義歯は夕食後に毎日ボリデントにつけている。		週に一度は歯科衛生士にみてもらい口腔ケアの指導を受けている

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養指導を受けた職員より勉強会を行っている。健康面を考えたうえの食事量にしている。		個人によって摂取している水分量が違うので1000～1200cc摂取できるように支援していく。
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	口に接する食器類は使用後に毎回ミルトンにつけ消毒をおこない食器乾燥機で乾燥をおこなっている。		今年はインフルエンザ等にかかった方もいないので継続して続ける。
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	夕食後、まな板、包丁はハイターで消毒行う。食材は、二日に一回買い物に行くので賞味期限や痛んでいる物をチェックしながら買い物書き出し行っている。		引き続き台所まわりを清潔に保つ。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	閉鎖的にならない様に、普段から玄関に鍵を掛けずに夜間のみ鍵を閉めるようにしている。		家族様など気持ち良く迎えられるように玄関周りに花を植える。
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	壁に皆さんで出かけた時の写真を飾り、季節の食べ物や花など昔を思い出せるように工夫している。		夜間落ち着いた時にフロアなど共用スペースを雑巾掛けする等をし、清潔に気を配っている。
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	洗面台の前にソファを置き仲の良い利用者同士でゆっくり話しのできる環境を作っている。		和室があまり活用されていないので皆さんでゆっくり座って話ができる環境を作って行きたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	昔から使われていたタンスやコタツなどを入所時に持って来て頂き環境の変化がなるべく少なくなるようにしている。		昔の写真や部屋に飾っていた飾りを持ってきてもらい、本人の落ち着く空間を作っていきたい。
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	掃除の時や空気が重たいときに窓を開け気分転換や空気の入替えを行っている。又、各居室に換気扇をつけ空気が常に循環するようにしている。		加湿器を使い室温だけでなく、湿度にも気をつけている。
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	風呂場の手すりを一人一人が使いやすいように多くつけている 廊下の手すりを少し低めに付け持って歩きやすいように取り付けている。		これからも個人の身体機能に応じて環境作りに取り組む。
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	ご飯の盛り付けや、洗濯物干しなど、昔から行っていた事を共に行い個人の活躍の場ができるようにしている。		利用者の得意な事、不得意な事を見極め、個人の出来る事を共に行い充実した日常生活が送れるように援助していく。
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	玄関先にある畑を使い、季節の野菜を植え育てている。		野菜だけでなく季節の花も育てて四季を楽しんで頂きたい。

. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる		ほぼ全ての利用者の
			利用者の2/3くらいの
			利用者の1/3くらいの
			ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある		毎日ある
			数日に1回程度ある
			たまにある
			ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている		ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている		ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている		ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている		ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています		ほぼ全ての家族と
			家族の2/3くらいと
			家族の1/3くらいと
			ほとんどできていない



項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		ほぼ毎日のように
			数日に1回程度
			たまに
			ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		大いに増えている
			少しずつ増えている
			あまり増えていない
			全くいない
98	職員は、生き活きと働けている		ほぼ全ての職員が
			職員の2/3くらいが
			職員の1/3くらいが
			ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		ほぼ全ての家族等が
			家族等の2/3くらいが
			家族等の1/3くらいが
			ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

天気の良い日は外へ出かけ、出来るだけ外へ出る機会を作り地域住民、ボランティア、幼稚園などのイベントには出来るだけ参加し地域交流を深めている。